安全・安心 ガイド

むつ市下北自然の家
〒039－4401　むつ市大畑町佐助川399
TEL:34－6151　FAX:34－6152

自然の中には，危険なことがあります。でも，危険を回避したり，うまく付き合うことで楽しく過ごすことができます。そのためには，事前の準備と情報収集が大切です。この「安心・安全ガイド」をよく読んで参考にしてください。

危険な生物

熊

ツキノワグマ

- ・熊よけの鈴
- ・声を出す

→ 熊に人の存在を知らせる

- ・熊よけスプレー
- ・小刀・ナタなど

→ 準備と安全対策

＊自然の家の職員が鈴を鳴らすなど熊よけ対策を取りながら同行。

ヘビ

マムシ・ヤマカガシは毒蛇。
山に入る時には棒などで前方を払って進むとより安全です。

マムシ
- ・強い毒を持つ。
- ・踏んだりしないと攻撃することは少ないとされる。
- ・咬まれた時は病院での治療が必要。

ヤマカガシ
- ・水辺に多く生息し，色が鮮やか。
- ・奥歯に毒があり，深く咬まれた時は危険で，病院での治療が必要。

咬まれた時

- 水などで傷口を洗う → 咬み口の心臓に近い方を幅広く縛る。
- 毒液を吸い取る → 自然の家の職員が用意した器具を使う。口での吸い取りは絶対しない。

病院

ハチ　スズメバチ

注意
- ・黒い服装は危険。
- ・長袖，手袋，帽子で。
- ・香水などはつけない。
- ・ハチを刺激しない。
- ・コース以外には入らない。

刺された！
- ・吸入スポイトなどで毒液を吸い取る。
- ・刺された場所を冷やす。

スズメバチと会ったら体を低くして手は振り回さない。

病院

＊自然の家では，ハチ駆除トラップの設置や活動前の駆除で事前対応。また，職員がハチ毒吸取り器を持ってコースに同行。

サル　ニホンザル

自然の家の山にも
人に威嚇する

サルと会ったら
- ・サルと目を合わせない。
- ・背中を見せないで離れる。
- ・騒がず，自然な行動をする。
- ・体を大きく見せる工夫をする。
- ・食料の入った袋は手から離す。

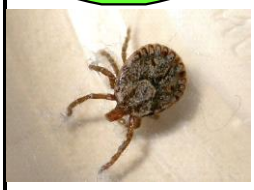
騒がない
見ない
離れる

＊自然の家では，職員がコースの先を行き確認。場合によってはロケット花火や爆竹などで追い払いの対策。また，コースにも同行。

注　意　！

ダニ

マダニ類



野山や畑

↓

ササ薮など注意！

皮膚に食い付き吸血

刺されると

刺し口・発熱・発疹

病 院

予防

- 長袖，長ズボン，首にタオル
- 防虫スプレー
- 地面に座らない
- 入山後は早めの入浴

ウルシ

木と ツル

ウルシかぶれ

ヤマウルシ

ツタウルシ

普通にある ／ 木も地面も注意

葉に絶対触れない！

予防

長袖
長ズボン
手袋

かぶれたら

病 院

落石・倒木

雨や大風の後

沢崩れ・落石・倒木など危険箇所発生

自然の家職員

➡ 事業開始前にコースを巡回・危険状況の確認

道路の確認
倒木の除去 ➡ 安全確保
落石の防止

＊ヘルメットの着用を義務化

津波・雷

地震　雷　火事　オヤジ

地震

すぐに
➡ 海からあがる

津波注意

高い所へ
逃げる

- 高い所へ避難する
- 大きな声で地震を知らせる
- ラジオなどで情報を確認する

＊自然の家では，気象情報の収集，ライフジャケット装着，ラジオやハンドマイク携行，救助ロープを備え，保安要員を配置し安全を確保。

どこから？どこに？

雷が来たら

- くぼ地に身を伏せる
- 建物や自動車に避難
- 高い木の下はキケン
- 砂浜はキケン

情報収集

- 天気予報
- 雷雲や黒雲の確認
- 雷の音の確認

＊自然の家では，雷情報の収集と，雷探知機を携行し海や山での活動に同行。

持ち物確認
忘れ物無し

山の服装	山の装備	海の服装	海の装備
・帽子 ・長袖，長ズボン ・手袋 ・タオル ・長靴	・熊よけ鈴，笛 ・飲料水，携行食 ・携帯電話，ラジオ ・常飲薬，虫除け薬	・帽子，サングラス ・トレパン，半ズボン ・手袋（採取時） ・タオル ・長靴	・飲料水 ・ラジオ ・ロープ，浮き輪 ・虫除け薬

救急関係連絡先

・大畑消防署	34－2135
・むつ警察署 大畑駐在所	34－2238
・むつ総合病院	22－2111
・むつ市役所	22－1111
・むつ市役所 大畑庁舎	34－2111

こんな時、どうする？【指導者用】

むつ市下北自然の家
〒039-4401　むつ市大畑町佐助川 399
TEL0175-34-6151　　FAX0175-34-6152

体験活動を安全に進めるために！

- 回避：近寄らない
- 避難：安全な場所へ移動
- 通報：助けを呼ぶ

ワンポイントアドバイス！

救命救急時　AEDは事務室前！

対処方法

状況判断

カミナリ、暴風雨、地震など！

◆気象状況に注意する！
◆安全な場所に避難する！
◆活動を中止する！

熱中症の予防！

◆激しい運動を行わない！
◆適度な水分を補給する！
◆涼しい場所に移動する！

危険な動植物！

◆動植物の特徴を知る！
◆危険な場所に近づかない！
◆安全な場所に避難する！

道に迷ったり、遭難したら！

◆動き回らない！
◆助けを呼ぶ！
◆単独（1人）で行動しない！

早期発見・早期治療！

●**通報**…早く周りの人（おとな）に知らせる。
●**避難**…安全な場所に避難する。
　＊動けない場合は、助けを呼ぶ。
●**処置**…ケガの状態を良く見て、安全な場所で応急処置をする。
　＊傷口をきれいな水で洗う＊止血する
　＊消毒する＊冷やす＊固定するなど

※ただちに応急処置を行う。
※大きな事故や原因不明などの緊急時には、直ちに救急車を呼ぶ！（意識がない、心配停止、大出血、骨折、けいれんするなど）

★万が一事故にあったら、安全な場所で安静にして救助を待つ！

起こりやすい事故

◆切傷・打撲・ねんざ・骨折
切傷による出血や衝突・落下・転倒などにより、打撲・ねんざ・骨折などをする。

◆かぶれる
ウルシなどの植物に触れ、皮ふがかぶれる。

◆かまれる・刺される・触れる
毒をもつヘビやムカデなどの動物にかまれたり、虫などに刺され、手当が必要になる。

◆火傷（やけど）
野外炊事などで、火や熱湯で火傷をする。

◆急病、動けなくなる
疲れたり、熱中症などの急病や事故・パニックなどで、倒れたり、自分でどう対処したらよいか分からなくなる。

地　震

- 地震が発生したときは、活動場所に応じて適切な指示を与え、避難させましょう。
- 海岸付近で揺れを感じた場合は、小さな揺れでも津波を想定し、全ての行動を中止して避難行動に移りましょう。

風雨など

- 雨や風が強いときは、体温がうばわれやすく、体が冷えます。
- 雨よけの傘やカッパが必要です。防寒対策も忘れずに。
- 雨が強く降るときは、見通しが悪くなったり、洪水、土砂崩れが起きやすくなります。
- 山道では、土がぬかるみ、滑りやすくなります。歩き方の注意が必要です。
- 気象情報に注意し、活動中止（変更）の判断も必要です。
- 風が強く吹くときは、倒木の危険や歩きにくくなる場合があります。

カミナリの発生

- 事前に、雷雨などの気象情報に注意し、カミナリが発生したら野外での活動をただちに止めましょう。
- 活動中に近くでカミナリが発生したら、低い姿勢をとり、安全な場所に避難しましょう。
- 安全な場所（車や建物内）に、速やかに避難しましょう。
- 高い樹木の下は危険です。
  ※木から４～５ｍ離れ、地面と頂点の角度が４５度以上の場所は安全です。
- テントの中は危険です。テントのポールが落雷を受けやすいからです。
- 野外炊事も危険です。別プログラムで対応しなければいけません。

原因や症状がわかっている軽微な病気

- 参加者の健康状態を把握するために、必ず健康観察を行いましょう。
- 病気やケガで、体調の悪いときは、無理をしないで休みましょう。
- 活動中に病気やケガで動けなくなったり、調子が悪いときは、できるだけ早く、引率者や職員に知らせてください。
- 万が一事故にあってケガをしたときは、ただちに応急処置を行いましょう。

重大事故や原因不明の病気けが

事故の発生 → **傷病者の救護** → **事後処理**

原因の究明
- 事故の発生状況を確認
- 二次災害（事故）の防止
- 避難・通報・記録

傷病者の応急処置
- 傷病者の容態を確認
- 安全確保・応急処置
- 状況により救急車を手配

治療・連絡・事後対応
- 医療機関で治療
- 保護者、関係機関に連絡
- 事故報告・事後対応

第4節　実施の判断基準

1　実施の判断マニュアル（フローチャート）

天候の状態
- 気象警報(雨、風、雪)
- 台風
- 雷

↓

防災情報
- 洪水警報、土砂災害情報
- 竜巻等の防災気象情報
- 地震、津波に関する情報
- 火山に関する情報

↓

コース・現場の確認
- 川の水位、風の強さ、波の高さ　等
- コース・現場の状態
- 土砂災害などが起こる可能性

↓

基本的な考え方を決定

<u>実施有無の判断基準</u>
- 気象情報から
- コース・現場の確認から
- 自然の家の考え方を決定

↓

使用団体への助言
- 天候・防災の情報提供
- コースの状態
- 使用者の健康状態
- サポートできる職員数
- 別プログラムの可能性

↓

使用団体内で相談
- 引率責任者を中心に話し合い
- 安全性を第一に
- 対策について話し合い

↓

使用団体と協議
- 使用団体の考え方を聞く
- 自然の家から助言

↓

実施の有無決定
- 自然の家から最終助言
- 使用団体と相談
- 使用団体が最終判断

↓

活動プログラム
- 予定通りのプログラム
- 雨天時のプログラム
- 修正プログラム

２　実施の有無の判断基準

（１）防災気象情報から

気象情報や今後の天候の予想をし、使用団体と相談してプログラムを実施するのかどうか、確認しています。最終判断は使用団体で決定しますが、状況によっては自然の家の判断に従ってもらう場合もあります。

以下の場会には、自然の家は「中止」を勧告します。

ア　**大雨や雷警報**が出ている場合は、**野外での活動は中止**とする。
　※大雨警報が出ている際は、当然洪水警報、土砂災害警戒情報が付随するものと考えるので、その際も野外の活動は中止する。
イ　**台風の場合は野外活動全面中止**する。
ウ　**竜巻注意情報、噴火警報、津波警報・注意報が出されている場合は野外活動全面中止**する。
エ　**地震**が発生した場合は津波を考慮して、**海付近での活動を中止**する。地震発生後も海でのプログラムを中止する。

（２）コース・現場の状態から

川の近くで活動する場合は、川の増水と土砂崩れに注意が必要です。常に水位に気をつけ、雨が降っていなくても水量が増えてきた場合は、活動をやめ避難しなければいけません。また、増水している川の水が一時的に引いた場合は、上流ががけ崩れでせき止められ、決壊したとたんに土石流が襲ってくる可能性があります。即座に避難しなければなりません。また、急斜面の上は「地すべり」、急斜面の下や途中は「がけ崩れ」の危険があります。

また、海での活動では、波が高かったり風が強かったりすると、危険性が増大します。

以下の場合には、自然の家は「中止」を勧告します。

ア　川の水位が**急に少なくなった（１０cm以下）の場合、２５cm以上の場合**は**活動を中止**とする。
イ　急斜面が**「地すべり」、「がけ崩れ」の恐れ**がある場合は**活動を中止**とする。
ウ　**波浪警報、注意報**が出されていて、北風が強く、**波が堤防や防波堤（ちぢり浜→岩）まできている場合は活動を中止**とする。

（３）留意点

天候の急変がない時でもプログラムを行うときは、携帯用の雷感知機を持参し雷が発生していないかを確認するとともに、その他に簡易携帯無線で事務室と連絡し、気象状況等の把握に努める体制をとります。

第５節　緊急時対応マニュアル

１　緊急時対応マニュアル（フローチャート）

異常発生
（事故、けが、災害等）

・事務室に連絡
・本人及び他の利用者の安全確保

↓

引率者へ連絡
（引率責任者、養護教諭等）

・１人は、引率者へ連絡
・もう１人は、利用者を静かに待機させる

↓

症状・現場の確認

・意識、呼吸の有無を確認する
・症状を確認する
・発症時の状況（一番近くにいた人）を聞く
・災害時の場合は、現場を確認する

↓

引率者の判断

・救急車が必要か
・自分達で搬送可能か
・応急手当で対応できるか
・活動プログラムを続行するのか　等

↓

事務室に連絡・相談

・１１９番通報
・現場付近に職員を
・応急手当の状況
・家族に連絡（利用団体）

↓

救急車受入準備

・駐車車両は
・案内人は
・通路の整理は

↓

救急車へ状況説明

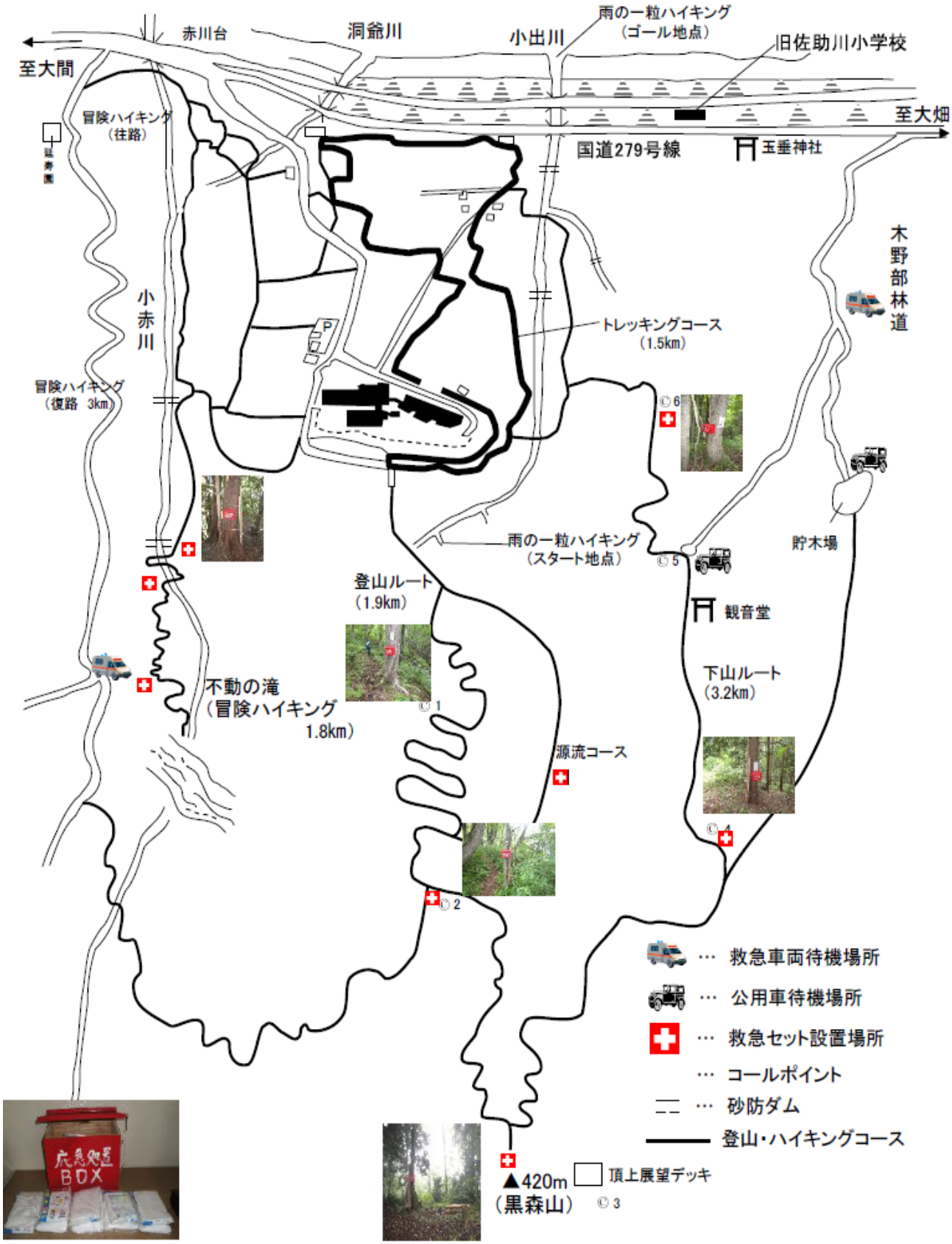
・意識、呼吸の有無。
　通報時点からの状態の変化の有無
・発症時の状況（一番近くにいた人）
・応急手当の状況
・主治医、関係者連絡状況
・医療情報
・同乗者は

↓

事故報告
（むつ市へ）

・関係諸団体へ連絡
・対応策
・事故報告書

2　応急セット配置図


赤川台
洞爺川
小出川
雨の一粒ハイキング
（ゴール地点）
旧佐助川小学校
至大間
至大畑
冒険ハイキング
（往路）
国道279号線
玉垂神社
木野部林道
小赤川
トレッキングコース
（1.5km）
冒険ハイキング
（復路　3km）
雨の一粒ハイキング
（スタート地点）
貯木場
登山ルート
（1.9km）
観音堂
下山ルート
（3.2km）
不動の滝
（冒険ハイキング
1.8km）
源流コース
▲420m
（黒森山）
頂上展望デッキ
… 救急車両待機場所
… 公用車待機場所
… 救急セット設置場所
… コールポイント
… 砂防ダム
登山・ハイキングコース
応急処置
BOX